

令和3年度 鈴鹿市高齢者福祉計画策定委員会 議事録

日時 令和3年6月17日(木) 午後2時

場所 鈴鹿市役所本館12階 1202会議室

出席委員：11名

菅原 秀次(会長), 西城 英郎(副会長), 元橋 庸好, 中西 淳一,
寺田 隆, 伊藤 健司, 山本 勝也, 福田 智女, 岡田 千麻子,
長谷川 友子, 市川 栄

事務局：8名

谷本 吉隆(健康福祉部長寿社会課長)
濱口 貴雄(健康福祉部長寿社会課管理グループリーダー)
市川 英二(健康福祉部長寿社会課高齢者福祉グループリーダー)
中上 陽子(健康福祉部長寿社会課地域包括ケアシステム推進室長)
今西 優子(健康福祉部長寿社会課地域包括ケアシステム推進室)
伊藤 峻(健康福祉部長寿社会課地域包括ケアシステム推進室)
飯島 明日香(健康福祉部長寿社会課地域包括ケアシステム推進室)
伊藤 貴子(健康福祉部健康福祉政策課地域福祉政策グループリーダー)

《会議の概要》

1 長寿社会課長あいさつ

2 鈴鹿市高齢者福祉計画策定委員会について

資料1 鈴鹿市高齢者施策推進協議会規則

資料2 鈴鹿市高齢者福祉計画策定委員会委員名簿

3 議事

(1) 会議の公開について

【委員長(菅原)】

委員の皆様にお断りをさせていただきます。本委員会の後に、地域ケア推進会議が控えていますので、終了時間を14時45分までとさせていただきます。では、議事(1)「会議の公開について」事務局より説明願います。

【事務局(中上)】

「会議の公開について」を説明いたします。本会議におきましては、原則公開としております。本日は、傍聴を希望される方がいないことを御報告いたします。

また、本会議の開催につきましては、市ホームページにて事前に公表してお

り、本日、本庁舎南側掲示板にて掲示させていただいております。

会議録につきましては、市ホームページにて公開してまいります。

なお、会議録を作成するため、録音をさせていただきたいと存じますが、この録音は、会議録作成にのみ使用し、会議録の作成がすみましたら消去いたしますので、御了承賜りますようお願いいたします。

また、委員の皆様には、発言の時に御名前を言ってからお話しいただきますと、議事録作成の関係で、大変助かりますので、御協力をお願いします。

では、録音ボタンを押させていただきます。

(2) 鈴鹿市高齢者福祉計画(第8次計画)取組状況について

【委員長(菅原)】

それでは、議事(2)番、「鈴鹿市高齢者福祉計画(第8次計画)取組状況」について事務局より説明願います。

【事務局(中上)】

第8次計画の取組状況を説明いたします。

委員の皆様には、昨年度に第9次計画の策定作業に御協力いただき、その中で、第8次計画の課題について御議論いただいておりますので、本日は、令和2年度の最終確定した実績報告となります。

では、資料3、資料4を御用意ください。令和2年度の取組状況について、御説明いたします。資料が前後しますが、資料4が、8次計画の基本目標及び活動指標の実績と取組内容で、資料3が、各施策について各担当所属の具体的な取組実績及び取組内容となっております。

まず資料4の1ページ目、基本目標1、2の成果指標の取組状況で、「基本目標1 地域包括ケアシステム構築の推進」の「成果指標1：生活支援コーディネーターの配置数」ですが、2020年度の目標値が29人としていたところ5人となっております。こちらについては、当初29か所の地域づくり協議会を立ち上げるという目標から、その協議会に一人ずつ生活支援コーディネーターを配置する予定でしたが、協議会では活動に応じてコーディネーターの役割を担う方が一人以上いらっしゃるの、市からの指名や役割をお願いするのではなく、協議会の中で自然に役割分担をしていただいているということで、市が設置するのは第1層に1名、第2層に5名のみにするという方向に変更させていただきました。2020年度の具体的な取組内容についてですが、市社協に配置している第1層のコーディネーターを1人、第2層のコーディネーターを4人の計5人が、第3層の地域づくり協議会の範囲において住民主体の介護予防・生活支援体制整備を推進するため、地域の支え合いの活動及び通いの場であるサロンの立ち上げ・運営支援を行いました。その結果、前年度に比べて、支え合い活動に取り組む地域づくり協議会が2地区から4地区に、サロン数は91箇所から96箇所が増加しました。今後の課題や方向性といたしましては、地域の支え合いの仕組づくりの取組が全市、つまり28の地域づくり協

議会に広がるよう、生活支援コーディネーターが、各地域の担い手の掘り起こしや支援を行い、リーダーを育てて住民主体の生活支援体制の整備を推進していきます。

次に「基本目標2 高齢者福祉の推進」の「成果指標2：高齢者の在宅生活を支えるための事業利用者数」ですが、2020年度の目標値が1,300人のところ、実績値が1,244人となっております。2020年度の具体的な取組内容についてですが、各事業において、高齢者のニーズに対応するための見直しを行いながら実施しました。今後の課題や方向性といたしましては、単身高齢者や身寄りのない高齢者の増加等、社会環境の大きな変化に対応できるよう、関係機関と連携してニーズを把握し、必要なサービスの提供を図ります。

次のページに移りまして、ここからは各施策の活動指標になります。

「1 地域包括ケア体制の確立」の「活動指標1：地域ケア会議の開催回数」ということで、2020年度の目標値が125回で、実績値が110回となっております。コロナの影響から会議の開催回数が少なくなっております。2020年度の具体的な取組内容についてですが、解決が困難な個別ケースに関する方策の検討・情報交換、地域課題の把握・解決に向けた協議を行い、施策形成につなげるための意見交換等を行いました。今後の課題や方向性といたしましては、個別会議、圏域会議、推進会議における会議の役割を明確にして、会議の充実を図ります。こちらの施策に関して、各課が取り組みました内容については、資料3の章番号「4-1-〇」と表示されている部分がすべてこの取組になります。

資料4に戻っていただきまして、「2 介護予防・生活支援の推進」の「活動指標2-1：介護予防教室の延べ参加者数」ですが、2020年度の目標値が23,500人となっておりますが、実績値が6,291人となっております。こちらについては、コロナ禍において、事業所に委託していた介護予防教室は、休止せざるを得ない状況でしたので、参加者数が少なくなっております。こちらの事業に関しましては、代替え事業といたしまして、在宅高齢者フレイル予防事業を実施し、家にこもりがちな参加者の方へ、郵送で啓発チラシやパンフレットを配付し、電話による声かけを行いました。2020年度の具体的な取組内容についてですが、運動・口腔・栄養・認知症等に関する教室を、介護事業所・公民館・保健センター・住民主体の通いの場等で実施する一方、コロナ禍において教室等の通いの場の休止により参加者への電話と資料等の郵送により啓発を行いました。今後の課題や方向性といたしましては、感染予防対策を行いながら開催できる、住民主体のサロンや老人クラブ等の通いの場を支援するよう出前教室や、自宅のできるWEB教室を行い、要介護状態や虚弱状態（フレイル）の発生及び悪化の予防・軽減を図ります。令和2年度まで実施しておりました介護予防教室をすべて、令和3年度から出前教室とWEB教室に切替えました。

続きまして、「活動指標2-2：地域における介護予防活動の支援者の登録人数」ですが、2020年度の目標値が450人のところ、実績値が335人となっております。2020年度の具体的な取組内容についてですが、鈴鹿いきいきボランティアやスクエアステップリーダー等、住民主体の介護予防活動の支援を行いました。今後の課題や方向性といたしましては、住民主体の通いの

場の充実のため、養成と活動支援を行っていくとともに、関係機関と連携を図りながら介護予防に資する地域活動組織への支援を行います。これらの施策に関して、各課が取り組みました内容については、資料3の章番号「4-2-〇」と表示されている部分がすべてこの取組になります。

次に「3 認知症施策の推進」の「活動指標3：認知症サポーターの養成人数（累計）」ですが、2020年度の目標値が25,000人に対し、実績値が19,776人となっております。やはりコロナ禍において、認知症サポーター養成講座を休止せざるを得ない状況が人数の減少に繋がっております。2020年度の具体的な取組内容についてですが、認知症に関する正しい知識と理解を身につけた認知症サポーターやキッズサポーターを養成するための講座等を実施したほか、大学等において感染リスクを考慮したWEB型の講座を実施しました。また、講座の講師を務めるキャラバン・メイトの活動支援を行いました。今後の課題や方向性といたしましては、地域団体や学校、企業等と連携しながら、幅広い世代に受講してもらえるよう啓発等を行います。こちらの施策に関して、各課が取り組みました内容については、資料3の章番号「4-3-〇」と表示されている部分がすべてこの取組になります。

次に「4 医療・介護の連携の推進」の「活動指標4：鈴鹿市地域包括在宅医療ケアシステム運営会議の開催回数」ですが、2020年度の目標値は9回、実績値は5回となっております。2020年度の具体的な取組内容についてですが、委員会を3回、勉強会を2回開催しました。勉強会については、コロナ禍においてWEB研修とし、鈴鹿市地域包括在宅医療ケアシステム運営会議を中心とした関係機関の連携強化を図りました。また、研究会については、感染リスクを考慮して中止しました。今後の課題や方向性といたしましては、鈴鹿市地域包括在宅医療ケアシステム運営会議を定期的で開催し、関係機関の連携強化を図ります。この会議につきましては、年3回の開催としておりましたが、今年度から年4回の開催を目標としております。こちらの施策に関して、各課が取り組みました内容については、資料3の章番号「4-4-〇」と表示されている部分がすべてこの取組になります。

次に「5 高齢者の尊厳を守るための施策の充実」の「活動指標5：権利擁護シンポジウムの開催回数」ですが、2020年度の目標値が1回のところ、実績値は0回となりました。2020年度の具体的な取組内容についてですが、成年後見制度の利用を促進し、被後見人の権利擁護に取り組みました。なお、権利擁護シンポジウムについては、コロナ禍における感染リスクを考慮し中止しました。今後の課題や方向性といたしましては、家庭や親族間の環境が変化し、高齢になって誰からも支援を受けることができない方が急増していますので、成年後見の必要な方々が制度利用につながるよう必要な支援を行うとともに、事前の準備等市民への啓発を行い、制度の理解を深めます。こちらの施策に関して、各課が取り組みました内容については、資料3の章番号「4-5-〇」と表示されている部分がすべてこの取組になります。

次に「6 住まいの確保」の「活動指標6：民間賃貸住宅相談会の開催回数」ですが、2020年度の目標値1回に対して、実績値は1回です。2020年度の具体的な取組内容についてですが、三重県居住支援連絡会の構成団体として、高齢者、障がい者、外国人、子育て世帯等で賃貸物件が見つからず困って

いる人に対し、ショッピングセンター等での民間賃貸住宅相談会の開催やパンフレットの配布等により、高齢者等の円滑な入居に関する支援を行いました。今後の課題や方向性といたしましては、住宅困窮者の安定した居住の確保を図るため、三重県居住支援連絡会の構成団体として高齢者等の円滑な入居に関する支援を行います。こちらの施策に関して、各課が取り組みました内容については、資料3の章番号「4-6-〇」と表示されている部分がすべてこの取組になります。

次に「7 安心・安全の体制づくり」の「活動指標7：災害時要援護者台帳の登録者数」ですが、2020年度の目標値が9,200人に対し、実績値が9,566人となっております。実績値が上回る結果となりました。2020年度の具体的な取組内容についてですが、災害時要援護者台帳の理解を深めるため、広報を行い、民生委員・児童委員と連携し、登録啓発を行いました。この事業は、民生委員・児童委員さんのお力添えがなければ、成しえない事業になりまして、各地区で各戸を回っていただき登録者数を増やしていただいております。今後の課題や方向性といたしましては、対象者が増加していく中で、効率的で効果的な事務の流れとシステム管理を確立していく必要があります。また、台帳の位置付けと効果的な利用方法を今後の地域づくりの動向も見ながら、全庁的に検討する必要があります。こちらの施策に関して、各課が取り組みました内容については、資料3の章番号「4-7-〇」と表示されている部分がすべてこの取組になります。

簡単ですが説明は以上です。

【委員長（菅原）】

はい、ありがとうございました。令和2年度の取組状況について、何か御質問、御意見はございませんか。

【委員（岡田）】

鈴鹿亀山地区広域連合介護保険課の岡田です。資料3の3ページ、項目番号で言いますと、21、22、23番についてですが、平成30年度及び令和元年度に記載してある、予防訪問介護相当サービス、予防通所介護相当サービス、介護予防のケアマネジメントの数値が鈴鹿市と亀山市を合わせた数値になっておりまして、令和2年度については鈴鹿市のみの数値が記載されております。平成30年度と令和元年度についても鈴鹿市のみの数値を記載しなければいけないところ、修正ができておりませんでした。正しい数値は第9次鈴鹿市高齢者福祉計画の75、76ページに掲載がございますので、お手数ですがこちらを御覧いただければと思います。

【委員長（菅原）】

ありがとうございます。その他ございませんか。

・・・意見、質問なし・・・

【委員長（菅原）】

そうしましたら、議事(2)番、「鈴鹿市高齢者福祉計画(第8次計画)取組状況」については御確認いただきましたので、議事(3)番、その他の部分で何か御意見や御質問はございませんか。

・・・意見，質問なし・・・

【委員長（菅原）】

議事はすべて終了いたしました。

・・・議事終了・・・